



宮崎県立都城泉ヶ丘高等学校附属中学校学校だより 第23号 (H23.11.11)

宮崎県都城市妻ヶ丘町27-15

TEL: 0986-23-0223 FAX: 0986-24-5884

校長 前田 哲司

しつ じつ ごう けん
質実剛健

「実力と気品をそなえ、たくましくあれ！」



初制覇！附属中硬式テニス部

～第35回宮崎県中学校秋季体育大会優勝！～

10月29日と10月31日に第35回宮崎県中学校秋季体育大会テニスの競技が行われました。なんと男子テニス部が男子団体で初優勝を飾りました。創部2年目で県大会を制覇する快挙です。日頃の練習の成果と中高一貫の取組が大きな成果を与えたと思います。更には生徒諸君の集中力の凄さではないでしょうか。他の学校に比べ練習時間が短いなかでの優勝というのは大きな価値があるのではないのでしょうか。女子団体は1回戦敗退でしたが今後につながる戦いでした。

テニス部監督 齊藤克彦先生のコメント

県秋季大会に向けて、暑い日も雨の日も一生懸命練習しました。そのことを神様が見ておられたのでしょうか。みんなの汗は無駄ではありませんでした。このことを忘れずに今後も練習に励みましょう。



そして、さらに「心・技・体」が向上できるようにしていきましょう。



尾前・松元・小野・桑畑・溝口（2年）豊國・荒武
寺本・常盤・仲道・中村風雅・中村泰正（1年）

爽やかな歌声が響きました！

～都北中学校音楽大会に出場！～

11月8日に都北中学校音楽大会がMJホールで開催されました。本校を代表して2-A組が参加しました。大会は、管内の中学校21校が参加し行われました。祝吉中学校の合唱から始まり、本校は4番目に歌いました。曲名は「時の旅人」代表藤岡ゆいさん、指揮榮福和希くん、伴奏者廣田佳穂さんで、都泉祭の歌声よりもさらにバージョンアップした歌声でした。会場にいられている他の学校の校長先生や音楽の先生から多くのお褒めの言葉をいただきました。また、多くの保護者の方も参観していただきありがとうございました。来年度はさらにレベルアップした歌声を聞かせてくれることでしょう。楽しみにしててください。



高校生の輝き！第55回日本学生科学賞 県知事賞受賞

県内の高校と中学から計33作品が寄せられ、都城泉ヶ丘高校化学部が県知事賞を受賞しました。研究テーマは「不溶化IEFが神の奇跡の正体か」で、審査では「根拠を持った予想や仮説を立てるなど、目的意識を持って課題解決に取り組んでいた。写真や図、グラフなどを適切に使い、結果をわかりやすく表現されていた」が評価されました。今後、県代表として東京で行われる中央審査に出品されます。(次年度は附属中も挑戦！)

自然科学探究1年「科学の謎に迫ろう！」

宮崎大学医学部 教授 林 克裕 先生

11月4日(金)に宮崎大学医学部、林克裕先生を迎えて「科学の謎に迫ろう！」というテーマで出前授業をしていただきました。主に「肝臓とインフルエンザ」について講義していただきました。

■～今回の授業を受けて感じたことが二つあります。一つ目は、医療の大変さです。説明を聞いている中で、専門的な言葉や単語が多く出てきました。医者や、医療関係に携わる人達はそのような難しい言葉や単語を全て熟知していないといけないんだなと感じました。二つ目は、死に対する考え方です。先生は、「医者にとって、患者の死は避けては通れないもの」と言われました。医者になるという夢がある僕にとって、とても胸に響く言葉でした。

■～今回の講義で、肝臓は、とても大事な役割をしていることが分かりました。肝臓のことで一番驚いたことがありました。一つは、肝臓を全部とると、意識障害になるということです。意識障害は、脳の中で異状があるとだけだと思っていたので肝臓はすごいなあと思いました。もう一つは、肝臓が体重の50分の1を占めていることです。いろいろな働きをしているから、50分の1を占めているのかなと思いました。インフルエンザは、人だけでなく、豚、鳥、馬、アザラシにもかかるということが分かりました。インフルエンザは、A・B・C型に分けられ、A型には144種類もあることに恐ろしさを感じました。新型インフルエンザが恐ろしいことも林先生の話聞いて、初めて恐ろしい病気だと思いました。私は、医学関係の仕事に就きたいと思っているので、林先生が教えてくださったことを生かしていきたいです。



＜アナライザーを利用した授業展開＞

根幹を培う

「根幹を培う」という言葉がある。これは美しい花を咲かせるためには、根や幹を立派にたくましく育てることが大事であるということを言っている。人間でいえば、中学・高校時代が根や幹を育てる、まさにその時期ではないだろうか。流行に追われ表面的なことばかりに気を取られ、今鍛えなければいけない事柄をおろそかにすると将来美しい花を咲かせることができない。だから附属の生徒には今を大切に、流行より学習や諸活動、学校行事、部活動などに真剣に打ち込み、立派な根や幹を育ててもらいたいと思う。各教科の学習では、一般的な知識を身につけ、人としての考え方や判断力を身につける。さらにその学習を通して、自分の優れた能力を発見し、将来の自分の進路を決定づける。そして、諸活動や学校行事、部活動では、その活動を通して根気強さや計画性、協調性や社会性などを身につけ、たくましい心や生きる力を育てる。

最近1年生と2年生の区別がつけにくくなった。4月当初は顔つきで1年生だということがすぐ分かったが、夏休みを明けてからは判断が難しい。それくらい顔つきや体つきに変化が生じてきた。日々の学習活動や諸活動とともに、5月におこなわれた二校定期戦、6月から7月にかけての中体連や定期テストなどの学校行事や部活動を通して心身ともにたくましさが増したからであろう。現状から察して、人生を左右する根幹づくりが着々と各学年に応じてできているのではないかと考える。人生の基礎固めをするといってもよいこの時期、自立のための自己鍛錬をこれから続けてほしい。

「怠けていると心が空しい、一生懸命やれば自分の非力がわかる」という言葉がある。怠惰な生活をしていると充実感がなく、一生懸命やれば自分に力がないことがよくわかるということであるが、附属中生が今の自分に満足することなく「より高き」を目指し、努力する中で「根幹を培う」ことができれば強く願いたい。

